資料

令和元年度　唐津市立打上小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
学ぶ力とかかわる力を持ち　たくましく生きる子どもの育成	①学力向上 「よく見る・よく聞く・よく考える」「けじめをつける　時・場所・場合」 ②豊かな心とコミュニケーション力の育成 「よく見る・よく聞く・よく考える」 ③生活指導の徹底 「けじめをつける　時・場所・場合」「あいさつ・返事・あとしまつ」「立腰による心の落ち着き」 ④保護者・地域等との連携を推進する。 **⑤自己肯定感と他者肯定感を育み、支持的風土のある学校。**

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

① 学力向上 「よく見る・よく聞く・よく考える」「けじめをつける　時・場所・場合」

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・授業研究の推進をしているか。 ・教育相談及び特別支援教育に関する知識と判断力を身につけているか。	・全職員が研究授業を1回以上実施し、事前、事後の研究の充実を図る。 ・計画的な研修によって、教育相談の方法や就学支援のあり方を理解する。	・協力して研究授業の指導案の検討を行う。算数科の授業研究会を実施し、優れた指導方法の共有を図る。 ・事例研修やスクールカウンセラーによる講話を元に本校児童への対応等を協議する。	A	・研究主任、研究推進を中心に、指導案検討を数回行い、指導案と研究の整合性を図った。また、模擬授業も必ず行い、協力してより良いものにした。 ・SCの講和、研究授業の反省、児童理解研をもとに、児童への指導と支援の共通理解を図ることができた。	・今年度の研究を基に、研究の方向性をさらに固める。また、職員の研究意識を高め、研究の共通理解を図るため、報告と連携を密にする。 ・教育相談担当職員、SC、担任の意見交換の機会を計画的に設け、学級の実態に応じた対応を協議する。
教育活動	● 志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・ 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒を80%以上にする。 ・授業の振り返りを実施し「わかった」「自分でできた」と評価する児童80%以上にする。 ・授業改善に向け、全員授業公開をする。	・ 全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・学習形態「なかよし」を推進し、毎時間振り返らせることで、達成感を味わわせる。 ・授業の相互参観と、公開授業をする。	B	・職員は、授業や学校行事の中で、児童の目標を達成させていたが、夢に結びつける機会をあまり設けていなかった。 ・すべての学年、学習で「なかよし学習」を実施し、児童たちは、意欲的に学ぶことができた。 ・公開授業やTTなど、職員が協力して実施できた。	・研修の機会を設け、職員に「志を高める教育」を周知する。 ・全校朝会などの集会活動の時には、児童に「志を高める教育」について話をしたり、問いかけたりする。
教育活動	●学力の向上	・学習意欲を向上させ、自分の考えを持たせる授業づくりができているか。 ・授業規律の徹底をしているか。 ・学年で身につけさせたい力と方策の共通理解できているか。	・「なかよし学習」（ひとりでタイム・ともだちタイム・みんなでタイム・もう一度ひとりでタイム）の充実を図る。 ・学習用具の準備・チャイムの合図で授業開始・授業終了時のふりかえり発言をさせる。 ・校内研での取り組みを生かした日々の授業展開の実践を図る。	・グループワーク（話し合い活動）の進め方を4つの型で示し司会が進め方のカードを参考に進行する。 ・研修会やチェックシート利用などで共通理解を図り、全学年授業の流れを徹底する。 ・唐津市の学力向上推進校として、全職員が研究授業を公開し、その授業研究会を通して、授業づくりのさらなる充実を目指す。 **・授業中の友達の発言をしっかり聴くように指導する。話す人も相手を意識させる。**	B	・TTによる指導法の工夫や、全職員による授業公開・授業研究会により、授業規律や「なかよし学習」の授業展開の共通理解を図ることができた。 ・今年度から研究主題が「支持的風土を醸成させる指導法」に変わり、授業研究の目標や論点が変化し、学力向上に対する意識が足りなかったように感じた。	・今年度の研究を通して、研究主題である支持的風土を醸成させるには、これまで通り、グループワークの充実や友だちの発言を反応しながらしっかり聞く力をつけることが必要であることが確認できたため、今後はその具体的方法について研修を深めていきたい。

②豊かな心とコミュニケーション力の育成 「よく見る・よく聞く・よく考える」・支持的風土のある学校

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	● 道徳の授業を中心とした心の教育	・温かい学校・学級づくりができているか。 ・学校や社会の決まりやマナーを守っているか。 ・人権・同和教育の推進を図っているか。	・道徳の授業の充実と支持的風土の学級経営により、人権意識や自己肯定感，規範意識の涵養をさせる。 ・人権集会や人権教育を通して自他を大切にし、お互いに認め合ったり、人権意識を高めたり共に高め合う児童の育成。	・道徳の授業の充実やQ－Uアンケートの効果的な活用等を通して、よりよい学校・学級づくりに努める。 ・講話や毎週の道徳の授業を通して、人権意識を高める。 ・年間指導計画をもとに授業の実践と、評価を進める。	B	・Q－Uアンケートの結果をそれぞれの各学年で分析・考察し、個別の対応を考えたり、職員間で共通理解することができた。 ・道徳の授業や日々の生活の中で、個別・全体指導知ることで人権意識を高めることに努めることができた。	・本校の研究主題である支持的風土を醸成させるために、これからも、人権・同和教育の関わりを考えながら、道徳の内容を確かめていく。 ・児童の実態に合わせた内容を取り上げ、身近な問題として考えさせるようにする。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制作りができているか。	・いじめに対応するための組織や連絡体制、対応策を確立し、有効に活用する。	・毎月の「なかよしアンケート」で、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・日々の児童の様子をよく観察し、アンケートに表れていない面についても、気になることの早期発見・早期対応に努めるようにする。 ・毎月の生活指導協議会で対応の仕方を協議し、組織的な対応を行う。	B	・毎月の「なかよしアンケート」により、いじめの早期発見や気になる事について職員間の共通理解を図ることができた。 ・毎月の生活指導協議会で対応の仕方を協議し、職員一丸となって連携した指導を行うことができた。	・教育活動全体を通して、自己肯定感を高めたり、互いに良さを認め合ったりすることができる児童を育てていく。 ・いじめに関わらず、小さなトラブルも含めて、生活指導連絡会のときだけでなく、普段より職員間の連絡を密にし、学年を越えてどのような課題があるかなど共通理解しておく。
教育活動	○特別活動による自主的実践的態度・仲間と自分を大切にする態度の育成	・宿泊体験、米作り体験などでお世話になっている地域、保護者の方々に感謝することができるか。 ・自分にできることを見つけ、協力して活動できるか。	・体験活動・ボランティア活動をとおした，自分や周りの人々を大切にする態度を育成する。 ・「気づき⇒考え⇒実行する」「よく見る・よく聞く・よく考える」を合い言葉に、真剣に取り組む態度を育てる。	・事前指導の折にも感謝の気持ちを忘れず、謙虚な心で取り組むことを指導する。 ・活動の目当てを意識させ、活動の後には振り返りの場を設けて、頑張りや協力の視点で発表させたり、まとめさせたりする。 **・授業中の友達の発言をしっかり聴くように指導する。話す人も相手を意識させる。**	A	・各学年、様々な体験活動を実施し講師を招いた。すべての講師が、本校児童の話しの聞き方、体験に対する意欲や姿勢など、態度の良さをほめてくださった。 ・「うなずきながら聞く」というきまりをつくり、話す人や友だちの方を向いてしっかりと聞く習慣をつけさせた。	・体験活動の後には必ず、講師の先生にお礼の手紙を書いたり、振り返りをしたりした。今後も続けていく。 ・体験活動をさらに計画していくよう、地域と連携する。

③生活指導の徹底 「けじめをつける　時・場所・場合」「あいさつ・返事・あとしまつ」「立腰による心の落ち着き」・自己肯定感と他者肯定感を育む教育

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○危機管理	・子どもの安全確保のための危機管理体制は整っているか。	・学校評価の保護者用アンケート項目「学校は安全対策ができているか」の達成率を95%以上にする。	・避難訓練の実施や安全指導を徹底する。危機管理上の課題を明確にするための訓練と位置づけ、危機管理マニュアルの実践化に取り組む。 ・様々な便りやはなまる連絡帳を通して、危機管理の意識をさらに高める。	B	保護者アンケートの結果から達成率は、86%と目標よりも9ポイントも下がった。	今年度以上に、登下校の安全対策を考えると共に、天災防災対策や原子力防災対策について、保護者との共通理解を図り、子ども達をいかに安全に避難させるか、保護者へ引き渡すかを明確にし、その訓練を行う。
教育活動	●健康・体つくり	・早寝、早起き、朝ご飯を推奨しているか。 ・体力向上を意識した取り組みができているか。 ・正しい姿勢で授業を受けることができているか。	・「早寝早起き朝ご飯」の達成率を90%以上にする。 ・学校評価の児童用アンケート項目「元気に外遊びや体力づくりができる」の達成率を90%以上にする。 ・立腰教育の推進を図る。	・保護者への啓発と、児童への声かけを頻繁に行う。 ・体育行事や体育の授業の中で、児童一人ひとりがめあてを持って体力向上に取り組むことができるようにする。また、外遊びを日常的に促す。 ・縄跳び月間や持久走月間などの全校的な取り組みを充実させる。 ・「立腰」を授業・集会の始めと終わりに実践させることで、落ち着いた心を育てる。	B	児童用アンケート項目「元気に外遊びや体力づくりができる」の達成率90%以上は達成できたものの、「早寝早起き朝ご飯」の達成率90%以上は達成できなかった。持久走やなわとびなどの全校的な取り組みに意欲的に参加できていた。「立腰」については、各授業等でも取り組ませていることもあり、よくできている。	外遊びや持久走、なわとびなどの体力向上の取り組みをこれまで通り進めていくとともに、「早寝早起き朝ごはん」といった生活リズムの啓蒙をさらに強化していかなければならない。「立腰」には取り組んでいるもの、児童の姿勢が良くなったとは言い難い面もあり、そうした面での意識付けもしていかなければならない。
教育活動	○人間関係の基礎づくり	・あいさつ運動の推進しているか。 ・自分や友達の気持ちを大切にしようとしているか。	・学校評価の児童用アンケート項目「気持ちのよいあいさつができる」の達成率を90%以上にする。 ・あいさつレベルの向上をめざし、レベル5を目標にする。 ・自分や友達の気持ちを大切にしているか、達成率を90%以上にする。	・あいさつのできている子供を奨励し、全児童に広める。 ・あいさつの状況を生活指導協議会などで確認し指導する。 ・授業中の友達の発言をしっかり聴くように指導する。話す人も相手を意識させる。	A	・「あいさつ」についてのアンケートの結果も、保護者は8ポイント、児童は6ポイント向上し、目標達成率を上回った。 ・「思いやり」についてのアンケート結果も目標を上回った。（93%）	・これからも月初め、輪番制で職員が通学路に立ち、あいさつのできている児童を紹介したり、あいさつの指導をしたりすることを継続する。 ・常にあいさつレベル5を目指した意識づけを図っていく。 ・「おはようございます」だけではなく、その場に合った挨拶が自然にできるように、あいさつの意味を伝えていく。
教育活動	○生活指導協議会を生かした指導生活規律の徹底	・きまりを守り，他者を大切にする気持ちの育成「ほかほか言葉」をしているか。 ・月別目標の徹底：「あいさつ・返事」「右側通行」「無言掃除」をしているか。	・当たり前のことが当たり前にできるように全職員で指導を徹底する。 ・学校評価の児童用アンケート項目「きまりや月別目標を守ることができる」の達成率を90%以上にする。	・毎月の生活指導協議会や普段の職員室での会話等の中で、児童の生活態度について確認をし、全職員で指導の徹底を図る。 ・全職員の共通理解の元、指導の徹底をはかるとともに、職員か見本となって行動する。	B	・「きまりは守る」「めあてはがんばる」ことを児童に伝え、全職員で指導したり、個別に話をしたりすることができた。	・「当たり前のことが当たり前にできる」児童を育てていきたい。そのために全職員同じ指導を徹底できるように共通理解を常に図っていく。

④　保護者・地域等との連携を推進する。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等を連携し効率化を促進しているか。 ・規範意識を高めているか。	・学校運営を組織的に行い、業務の効率化と分散化を図ることによって、質の高い業務内容を目指し、なおかつ個人負担を軽減する。 ・明るい職員室作りを目指し、美化や環境を整える。	・企画委員会を中心として、行事、企画を精選し、学年や教科などが組織的に活動しやすい環境を作る。 ・明るい挨拶と、感謝の言葉が飛び交う職員室になるように働きかける。	B	・働き方改革を意識して、行事の提案を行い実施したが、まだまだ改革や行事の精選ができたかもしれない。 ・職員間の仲が良く、明るい挨拶や冗談が飛び交っていた。そのため、仲間意識が高まり、協力体制ができた。	・職員の意見や新学習指導要領をもとに、行事の精選や簡略化などを行う。 ・校区内の学校や地域と連携し、行事について検討する。 ・職員レクを実施し、楽しい職場づくりをめざす。
学校運営	○保護者・地域との連携	・地域と共に取り組む学校づくりができているか。	・地域や保護者が積極的に参加できる教育活動を計画する。	・保護者や地域の方との協力体制を維持しながら、教育活動を進める。	B	・学級・学校行事への参加協力は素晴らしい。 ・保護者の育友会総会や教育講演会への参加率が上がった。	・保護者同士の声かけによって、総会を盛り上げる努力をしてもらう。 ・保護者が興味を持っていただけるような講師を選び、参加率を上げる。
学校運営	○4校連携の推進	・具体的な取り組みについて共通理解し、実践しているか。	・海青中校区4校の校長会・研究主任会を中心に、全職員で、9年間を見通した「目指す児童・生徒像」の育成に取り組む。	・学年に応じた家庭学習の時間の確保について、家庭との連携をより深めながら全学級で取り組む。 ・他校への授業参観の機会を作る。 ・各部の取り組みの具体化を図る。	B	・話し合いの機会が少なく、海青中校区4校との共通理解が難しかった。 ・本校の授業を調整し、校区内すべての授業を参観し、他校の考えを吸収することができた。 ・校区のきまりを各クラスで実践できた。	・研究主任会、各専門部会の会議を計画的に設定し、目的や方向性の確認、決定事項の進捗状況確認の把握を密に行う。 ・校区での取り組みを学校、学級、専門部会の通信で積極的に各家庭に紹介していく。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

・保護者アンケートの評価と、児童アンケートの評価は、昨年同様か上がったものが多かった。しかし、保護者と児童で評価の差が大きい項目が見られた。来年度は、それらの課題が解消できるように、全職員が学校経営方針を十分に具現化し、より一丸となって学校教育目標の実現に取り組んでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目